

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小野 容照					
配当 学年	全回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	朝鮮独立運動と国際関係										
【授業の概要・目的】											
1910年から1945年まで日本の統治下にあった朝鮮では、様々な形で独立運動が展開された。現在、韓国政府は独立運動の功労者の発掘や顕彰を行っており、韓国の歴史教科書でも独立運動に少なくない紙幅が割かれるなど、植民地時代の独立運動に関する記憶は、韓国の民族アイデンティティを示すものとして重要視されている。しかしその一方で、朝鮮独立運動と国際社会との関係については、十分に明らかになっていない。この講義では、朝鮮独立運動と同時代の国際社会との関係について考察する。とりわけ、人類史上初の総力戦として世界規模で影響を及ぼした第一次世界大戦に着目しながら、大戦を契機として朝鮮独立運動が他国・他地域・他民族の運動とつながっていく過程について考え、グローバルな視野で朝鮮独立運動史を捉え直していきたい。											
【到達目標】											
1) 朝鮮独立運動の概要を理解する。あわせて、朝鮮独立運動の記憶が現在の韓国・北朝鮮でどのように活用されているのか理解を深める 2) 第一次世界大戦期の朝鮮を取り巻く国際状況について理解を深めるとともに、グローバルな観点から歴史を見る目を養う											
【授業計画と内容】											
以下のようなテーマについて、各々1～3週の授業をする予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：韓国における独立運動家の顕彰と対日協力者の清算事業 2. 韓国併合以前の抗日運動 3. ウラジオストクにおける朝鮮独立運動：帝政ロシアと日露再戦への期待 4. 第一次世界大戦の勃発と朝鮮独立運動：中国、ドイツとの提携の摸索 5. 日本における朝鮮独立運動：中国人革命家、台湾人と日本在留朝鮮人 6. 民族受決主義と朝鮮人：ロシア二月革命、十月革命、ウィルソンの十四か条 7. パリ講和会議と三・一独立運動 8. コミンテルン、ソ連と朝鮮独立運動 9. 朝鮮人の世界認識の拡大 10. 北朝鮮における独立運動史研究について考える 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（20%）と期末レポート（80%）による。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントなどを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

興味のある人は、授業中に紹介する参考書を読み、理解を深めて欲しい

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。